

各位

上場会社名 (株)アルバック
 代表者 代表取締役社長 諏訪 秀則
 (コード番号 6728)
 問合せ先責任者 専務取締役経営企画室長 常見 佳弘
 (TEL 0467-89-2033)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年8月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年6月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年7月1日～平成20年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	136,000	3,900	2,800	900	20.98
今回発表予想(B)	119,000	2,400	△300	△1,000	△23.31
増減額(B-A)	△17,000	△1,500	△3,100	△1,900	――
増減率(%)	△12.5	△38.5	△110.7	△211.1	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年6月期第2四半期)	116,706	3,674	2,351	2,305	53.73

平成21年6月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年7月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	300,000	15,000	12,000	7,400	172.51
今回発表予想(B)	267,500	6,800	1,800	100	2.33
増減額(B-A)	△32,500	△8,200	△10,200	△7,300	――
増減率(%)	△10.8	△54.7	△85.0	△98.6	――
(ご参考)前期実績 (平成20年6月期)	241,212	9,081	5,075	3,610	84.16

平成21年6月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年7月1日～平成20年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	85,000	△600	1,200	△200	△4.66
今回発表予想(B)	75,200	△2,900	△800	600	13.99
増減額(B-A)	△9,800	△2,300	△2,000	800	――
増減率(%)	△11.5	――	△166.7	△400.0	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年6月期第2四半期)	68,928	△668	2,079	2,868	66.85

平成21年6月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年7月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	190,000	3,600	5,500	2,800	65.26
今回発表予想(B)	173,700	△2,100	200	1,400	32.64
増減額(B-A)	△16,300	△5,700	△5,300	△1,400	――
増減率(%)	△8.6	△158.3	△96.4	△50.0	――
(ご参考)前期実績 (平成20年6月期)	154,223	764	4,085	3,393	79.07

修正の理由

当社グループのおお客様である半導体業界において、DRAMやフラッシュメモリなどの価格下落などによる生産調整に加え、フラットパネルディスプレイ業界でも、液晶パネルの在庫調整などにより、装置の納入延期や設備投資を抑制する動きが強くなってまいりました。更に、米国の金融危機の影響や円高などにより、設備投資の回復の兆しが見られないなど当社を取り巻く環境は非常に厳しくなっております。

一方、エネルギー・環境関連における太陽電池業界では、一部のおお客様において工場建設の遅延などで納入延期がみられるものの、受注・引き合いは活況な状況が継続しております。

このような環境のため、収益性の高い半導体や液晶ディスプレイ製造装置の売上高の減少や韓国の連結子会社の円高による為替差損などにより、業績予想の修正をいたしました。当社グループにおいては、緊急対策として、大幅な経費削減及び固定費削減や役員報酬カットなどを実施し、収益の確保を図ってまいります。

(1) 第2四半期累計期間業績(連結・単独)

売上高は、半導体製造装置においては、お客様の投資計画の凍結や台湾などでの液晶ディスプレイ製造装置の納入延期などにより、予想値が達成できないと予想されます。これらの状況から、連結は1,190億円(前回発表予想値1,360億円)、単独は752億円(前回発表予想値850億円)となる見込みです。

営業利益は、収益性の高い半導体や液晶ディスプレイ製造装置の売上高が予想を下回ること、連結は24億円(前回発表予想値39億円)、単独は△29億円(前回発表予想値△6億円)と前回発表予想値を下回る見込みです。

経常利益は、韓国の連結子会社における為替差損などの発生により、連結で△3億円(前回発表予想値28億円)となり、単独は△8億円(前回発表予想値12億円)となる見込みです。

(2) 通期業績(連結・単独)

売上高は、半導体製造装置においては、お客様の投資計画の凍結や台湾などでの液晶ディスプレイ製造装置の納入延期、太陽電池製造装置での客先工場建設の遅延などにより、予想値が達成できないと予想されます。これらの状況から、連結は2,675億円(前回発表予想値3,000億円)、単独は1,737億円(前回発表予想値1,900億円)となる見込みです。

営業利益は、収益性の高い半導体や液晶ディスプレイ製造装置の売上高が予想を下回ること、連結は68億円(前回発表予想値150億円)、単独は△21億円(前回発表予想値36億円)と前回発表予想値を下回る見込みです。

経常利益は、韓国の連結子会社における為替差損などの発生により、連結は18億円(前回発表予想値120億円)、単独は2億円(前回発表予想値55億円)となる見込みです。

今回の業績予想の修正に関する経営責任を明確にするために、以下のとおり役員報酬の減額を実施することといたしましたのでお知らせいたします。

また、監査役(常勤)より監査役報酬の自主返上の申し入れがありましたので、併せてお知らせいたします。

(1) 役員報酬の減額の内容

代表取締役 : 役員報酬月額15%を減額
役付取締役 : 役員報酬月額10%を減額
取締役(常勤) : 役員報酬月額5%を減額
監査役(常勤) : 取締役(常勤)と同額を返上

(2) 対象期間 : 平成20年11月から平成21年6月まで

(注) 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

以上